

出題分析			
試験時間	60分	配点	60点
		大問数	4題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] [同程度] 難化]
<b>【概評】</b> 昨年は誤箇所指摘問題 1 題と長文読解問題 4 題の計 5 題という構成であったが、誤箇所指摘問題が消え、長文読解問題 4 題のみとなった。試験時間は昨年同様の 60 分。大問が 1 つ削減されたが、各大問の設問数は語彙問題が 1 問追加されて 6 つとなったため、負担感は昨年とさほど変わらない。英文や選択肢の語彙レベルは高い傾向にあり、解答に迷う選択肢が含まれる点も例年通りであり、難易度は昨年並みである。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「ランチ休憩をとることの効果」	論旨自体はわかりやすいが、本文の英語の語彙レベルが高く、読みづらさを感じた受験生もいたかもしれない。問 2 の同義語選択問題では、選択肢に難単語 (tottered) が含まれており解答に迷う。その他の設問には特に紛らわしい選択肢は見当たらない。	標準
II	長文読解問題 「手話でのコミュニケーションから学んだこと」	著者の体験を述べたエッセイ調の英文が題材。問 3 の euphemisms (婉曲表現) の意味を問う問題は、単語そのものの知識がないと文脈だけでは正解を絞り込みにくい。後半の内容一致文選択問題は、著者の心情変化や言葉と手話の違いを押さえて取り組めば得点できる問題である。	標準
III	長文読解問題 「地球温暖化が昆虫の色に及ぼす影響」	他の大問と比較すると、語彙レベルの高い単語の数は抑えられており読み進めやすい。設問にも特に紛らわしい選択肢は見当たらないので、本文の内容を正確に把握できたかが得点を左右したであろう。	標準

IV	長文読解問題 「マッチングアルゴリズムとその応用」	本文で説明された「安定結婚問題」のアルゴリズムの手順を一度読んでだけで正確に理解するのは難度が高く、数学的思考力や背景知識があるかどうかで取り組みやすさに差が出た。とりわけ問 6 の内容一致文選択問題では、特定の条件設定をアルゴリズムに当てはめて考える必要があった。空所補充や同義語選択でも文脈からの推測だけでは対処しきれないものが含まれており、総じて高い英語力が要求された。	やや難
----	------------------------------	--	-----

#### 合格のための学習法

長文読解問題で多く出題される、本文中の単語の意味に近い語を選ぶ問題は、選択肢自体が難単語の場合がある。推測に頼っては解答できないことがあるので語彙力強化が必要である。また、全体の読解量が多いため、主題と論理展開を迅速に掴む練習が必要となるだろう。内容一致文選択問題では正しい選択肢を複数選ぶ問題が出題されているので、過去問演習などを通じて慣れておきたい。